

# 飯島賢二の『恐縮ですが...一言コラム』

## 第 385 回 「生徒会バラバラ内閣」の責任を問う！！

2010.10.3

尖閣列島問題、検察庁事件等、信じられないことが平気で起っている。  
今、日本の存在が世界中から問われているにもかかわらず、  
その無策ぶりに、怒りを通り越して、脱力感に苛(さいな)まれている。

平沼赳夫衆議院議員の Web Magazine「政治武士道」に、次のような一文が掲載されている。  
(略)

... 「政治屋」の特徴は、いわゆるポピュリズム (populism) です。  
政治家にとって本来もっとも大切な、国家、民族、文化と伝統を守ることや、  
国民の安全平和よりも、  
今流行している目の前の空気に迎合して、一時的な人気取りをしてしまう。  
目の前の出来事に流され、モノに流され、政治家本来の大きな使命を忘れてしまう。  
日本を振り返ってみると、今、政治家はあまりに少ない。政治屋が限りなく多い。  
そのことが、  
日本国民が政治に不信感を持っている一因であることは間違いありません。(略) ...

どうも最近の政治は、下世話な田舎芝居を見ているようで、やっぱり日本人の美学に合わない。  
甘いこと、美味しいことの世離れした観念論ばかりいう(鳩山由紀夫風)、人気取りが多いようである。  
たぶん、幼稚な、「ケツガ青い」(m(\_)\_m) 政治のど素人と、(谷亮子&小沢ガールズ風)  
名声と名誉欲に邁進する政治屋(菅直人風)ばかりが、目立っているような気がしてならない。

確かに、どす黒い、私利私欲で金権欲に没頭するタイプ(小沢一郎風)ではない。  
でも、頭のいいお坊ちゃま風、常に理想論を掲げつつ、現実が見えていない。(前原誠司&長妻昭風)  
人の意見はインプットせず、決して謝(あやま)らず。(枝野幸男風)  
自論を攻められたら、相手かまわず、徹底的にぶちのめす。(岡田克也風)  
自分のことは棚に上げ、人の批判は得意中の得意。(原口一博風)  
冷酷なロボットのように、温かさが感じられない(仙谷由人風)。すべてが表面的で、場当たりだ。  
まるで弁論部のディベートを聞いているようで、優しさ、労りのカケラもない。(玄葉光一郎風)  
屁理屈の機関銃(蓮舫風)のようだと言いつつ、小生、「生徒会バラバラ内閣」と呼んだりしている。

マックス・ヴェーバー (Max Weber ドイツの社会学者・経済学者) は、  
政治家に求められる資質として

1. 未来を構想しながら、現実を変革していこうとする情熱
  2. 現状をいまそこにあるままに、しかも一定の距離感覚をもって理解できる洞察力
  3. 政治がときには暴力を手段として選ばざるを得ないことを踏まえた結果責任への自覚
- の3つを挙げている。

“政治家は国家のために自分を捧げ、政治屋は自分のために国家を利用する”とは、  
ポンピドゥー (Georges Jean Raymond Pompidou フランスの元首相) の言葉。

今の与党議員の頭の中は次の「選挙」のことばかり、本物の政治家は次の「選挙」ではなく、次の「時代」のことを考えるはずだ。

失われた20年...というが、決してその時は終息していない。この間の日本の経済力、信用、民族として、国家としてのプライドと実力の喪失は、計り知れないものがある。  
あと何年失われ続ければいいのか...、妙に稚拙な政治屋どもと、面白おかしく煽り立てるだけのマスコミ、見事に、それにのってしまいう有権者がいる限り、当面、ストップがかからない。